

取組と目標に対する自己評価シート
高齢者の自立支援、介護予防又は重度化防止に関する取組と目標

年度	令和3年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
・高齢者の健康づくりの取組として、地域で開催しているサロンやよさってくらぶ等の開催に合わせ、出前健康講座の依頼に対し、脳血管疾患、高血圧症、糖尿病などの生活習慣病の予防や認知症予防に関する普及啓発を行った。また、重症化予防のため、積極的に健診を受け、自らがより良い生活習慣への変容できるよう普及啓発を行うとともに、生活習慣病の重症度が高いと思われる対象者に対し必要な支援を行った。今年度は、コロナの影響により、状況をみながら行っている。 ・「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の取組においては、令和3年10月から開始することとしており、地域の医療関係団体や、庁内関係課と連携を図り、高齢者の健康課題について情報共有を行っている。 ・介護予防の通いの場の充実では、令和3年9月30日までの住民主体の場いの場合「よさってくらぶ」実施状況は、実施力所数（登録団体数）が87カ所、参加人数が1,235人となっている。新型コロナウイルス感染症の蔓延により、活動を自粛する団体が多い状況であった。また、出向く支援の人数を最小限にしながら継続的な活動が出来るよう支援を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、交流会は実施できていない状況であるが、各団体の活動状況を掲載した「よさって通信」を発行するほか、各団体の活動状況の共有、活動自粛期間にも取り組める筋力運動やストレッチのチラシなどを配布した。 ・自立支援・介護予防に関する普及啓発では、65歳を迎えた市民がこれからの人生を考え、住み慣れた地域で自分らしい生活を送ることができることを目的に、5回コースで「65歳からの生き方講座」を開催。当初8月からの開始予定だったが、コロナ感染症拡大の影響により10月からの開始に変更している。 ・介護予防推進大会は、市民一般を対象とした介護予防普及啓発を目的に開催してきた。コロナ感染症の蔓延により、高齢者に聞き取り調査を行ったところ、市が一カ所に集めて開催する講演会に対して前向きではない意見が多かったため、今年度は推進大会を中止し、来年度以降、どのような形で介護予防普及啓発を進めることが効果的か検討を進めることとした。 ・幅広い専門職の関与による高齢者の自立支援に資する取組の推進では、リハビリテーション専門職の関与による地域リハビリテーション活動支援事業にて、介護予防の推進に取り組んでいる。「よさってくらぶ」の3カ所の活動団体に対し、介護予防についての講話や個別相談等を各団体3回ずつの実施を予定している。新型コロナウイルス蔓延の状況により日程を変更し開催。 ・高齢者の社会参加の促進では、活動の担い手としての社会参加を促進するため、様々な機

会を活用し、その必要性の普及啓発を行いながら、地域で行われているサロンやよさってくらぶ、趣味・サークル活動などの把握や情報発信に努めたが、コロナの影響等により思うような取組が出来なかった。

自己評価結果

自己評価結果【△】

- ・「よさってくらぶ」実施カ所数（登録団体数） 87 カ所（R3.9.30 現在）⇒目標の 100 箇所に対し新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を自粛する団体が多い状況であった。
- ・「よさってくらぶ」の参加者数 1,235 人（R3.9.30 現在）⇒目標の 1,500 人に対し、新型コロナウイルス感染症の影響により新規活動団体数が伸びない状況のため参加者数も伸びなかった。
- ・要支援から要介護に移行する人の割合 42.5%（R3.9.30 現在）

課題と対応策

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、例年に比べ「よさってくらぶ」の新規活動団体数が伸びない状況である。新型コロナ感染状況を見ながら、市内の地区センターに対し、いきいき百歳体操の普及啓発を図るとともに、住民の介護予防への動機づけや、講座参加者が自身の住む地域で新たに活動を始めきっかけとすることを目的に地区センター向けの体験講座の実施を検討していく。
- ・65 歳の生き方講座は、グループワークの活用により、参加者同士のつながりを作り、社会参加のきっかけづくりとすることも目的としていたが、今年度は、コロナの影響によりグループワークを行うことが困難であることから、社会参加が、健康づくりや介護予防に有効であることをわかりやすく伝える工夫を行い、目的の達成につなげていきたい。
- ・介護予防普及啓発においては、住民に対し身近な場所での出前講座等が有効であると考えことから、介護予防の普及啓発について何をどのように伝えていくことが効果的か検討を行いながら進めていく。
- ・要支援から要介護移行者の状況把握について検討する。

後期（実績評価）

実施内容

自己評価結果

課題と対応策

取組と目標に対する自己評価シート
介護給付の適正化に関する取組と目標

年度	令和３年度
----	-------

前期（中間見直し）

実施内容
令和３年４月１日から１０月４日までの実施状況 ・医療情報との突合・縦覧点検 ⇒ 毎月実施 ・介護給付費通知 ⇒ 令和３年６月１日（令和２年９月～令和２年１２月サービス提供分） 令和３年１０月４日（令和３年１月～令和３年４月サービス提供分） ・ケアプランの点検、実地指導 ⇒ 未実施
自己評価結果
自己評価結果【△】 ・「介護給付費通知」、「医療情報との突合・縦覧点検」 ⇒ 計画どおりに実施できた。 ・「ケアプラン点検」 ⇒ 今年度点検計画等の準備作業が遅れ、前期は実施できなかった。 ・「実地指導」 ⇒ 新型コロナウイルス感染拡大防止により実施を見合わせ、未実施。
課題と対応策
・実地指導は、施設等へ訪問による指導となり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大時は、施設で家族を含む外部の方との訪問を禁止するため、職員等の訪問が困難となった。今後は治療薬等が確立されれば通常の感染症と同様の扱いとなると思われるが、感染拡大時の実地指導の対応方法（訪問時間の短縮など）について検討する必要があると考える。 ・ケアプラン点検や実地指導は、介護給付費適正化を図るうえで効果的であることから、さらに適正化事業を充実させるため、職員又は介護給付適正化指導員のさらなる増員も必要と考えているが、市の現状から職員等の増員や予算増額はかなり厳しい状況にある。

後期（実績評価）

実施内容
自己評価結果
課題と対応策